

静岡赤十字病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

承認番号 研究課題名	NO 2024-30 呼吸器外科手術において抜管方法が術後肺合併症の発症に及ぼす影響（後方視的研究）
当院の実施責任者及び 職名	麻酔科 第一麻酔科部長兼手術部長 渡部恭大
多機関共同研究の場合 研究代表（責任）者	なし
研究期間（西暦）	当院倫理委員会承認後～2025 年 12 月 31 日
対象期間（西暦）	2020 年 1 月 1 日～2025 年 1 月 31 日
研究の目的	呼吸器外科手術では術中に肺実質への機械的圧迫が繰り返され、病変切除の有無を問わず物理的に肺実質の損傷が起こりうる。また患者背景（肺気腫の合併、巨大肺嚢胞の存在等）からも肺実質は損傷しやすく、手術用の広口径の二腔気管支チューブ（ダブルルーメンチューブ）を使用することで麻酔覚醒時および抜管時の有害事象（バッキング、咳嗽（反射）、喉頭痙攣、誤嚥、上気道閉塞等）が容易に術後肺障害につながりうる。そのためとくに肺障害のリスクが高い患者では、挿管チューブを声門上器具に入れ替えてから抜管するなどの取り組みをおこない、術後肺障害の発症を予防している。さらには周術期に鎮静薬を持続的に投与することで麻酔覚醒時および術後せん妄の発症を防ぎ、安全な術後経過に貢献するような方策も取られる。しかし、現在のところ安全かつ有効な抜管方法についてのエビデンスやコンセンサスは乏しく、本研究では、呼吸器外科手術における麻酔覚醒・抜管方法の違いが術後肺合併症の発症に与える影響を後方視的に検討することで、より安全で質の高い麻酔管理方法を確立することを主な目的とする。
研究の内容	2020 年 1 月 1 日から 2025 年 1 月 31 日の間に当院呼吸器外科で手術を受けた患者の対象疾患、実施術式、患者背景（年齢、身長、体重、性別、既往歴、合併症、手術歴、社会歴、生理機能検査結果、内服薬等）、麻酔方法（全身麻酔（静脈麻酔・吸入麻酔）、硬膜外麻酔・末梢神経ブロック・術後持続静脈鎮痛法使用の有無、術中・術後持続鎮静薬投与の有無（とくにデクスメデトミジン投与の有無と投与量）、挿管および抜管方法、挿管困難の有無、術後肺合併症（肺瘻エアリークによる再手術・胸膜癒着術、その他の原因による再手術、新規の肺炎発症、院内死亡、退院後一週間以内の肺瘻による再入院等）の有無と転帰について電子カルテから後方視的にデータを収集・解析します。手術を受けた

	患者を3群にわけて、それぞれ1.普通抜管群 2.声門上器具入れ替え抜管群 3.声門上器具入れ換え+デクスメドミジン投与群とし複合エンドポイントとして肺合併症の発症頻度を比較検討する。除外する対象患者として、挿管または抜管をしなかった患者、もともと気管切開をしている患者、術中に気管切開を行った患者。また術式として縦隔腫瘍・胸壁腫瘍切除術（肺実質に対する侵襲は比較的小さく、肺損傷は起こりにくいため）、膿胸や血胸手術（患者背景、術後入院期間、ドレーン留置期間などが肺癌や気胸の患者と比較するには違いが大き過ぎデータにバイアスが発生する可能性が高いため）は除外する。
個人情報の取扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等での発表、論文執筆を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
問い合わせ先 (拒否等受付窓口)	【研究担当者】 所属：静岡赤十字病院 麻酔科 氏名：麻酔科部長 渡部恭大 住所：静岡県静岡市葵区追手町 8-2 電話：054-254-4311